



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 概要
 - 2.2. 前提条件
- 3. データ移行前の準備
 - 3.1. 移行ツールのインストール
 - 3.2. データのバックアップ
 - 3.3. 設定ファイルの編集
- 4. データ移行の実施
 - 4.1. 中間ファイルのエクスポート
 - 4.2. 中間ファイルのインポート
- 5. エラーが発生した場合
 - 5.1. エラーの確認方法
 - 5.2. エラー一覧
- 6. 制限事項一覧
 - 6.1. 移行対象
 - 6.2. 移行注意点
 - 6.3. 設定ファイル (conference-importer-config.properties)

変更年月日	変更内容
2015-12-01	初版
2018-12-01	第2版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">▪ 「はじめに」に前提条件に関する注意を追加
2021-08-01	第3版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">▪ 「移行ツールのインストール」のJDBCドライバの入手に関する説明を変更

項目

- 概要
- 前提条件

i コラム

用語解説

「intra-mart Accel Platform」 以下、iAPと略します。
「intra-mart Accel Collaboration」 以下、iACと略します。
「イントラネット・スタートパック」 以下、ISPと略します。

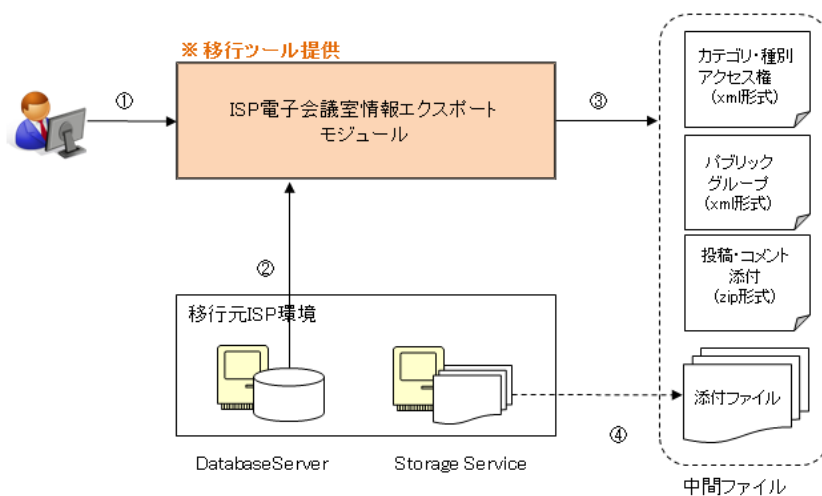
概要

本ドキュメントは、ISPで使用していた関連情報を、電子会議室へ移行する際の移行手順について記述します。

このバージョンの移行ツールは、「intra-mart Accel Collaboration (Ver.8.0.11) 電子会議室オプション」に対する移行ツールになります。

本ツールは、以下の処理を実行します。

- 中間ファイルのエクスポート



- ①. 中間ファイルのエクスポートを実行します。
- ②. 移行元ISP環境のデータベースから電子会議室のデータを取得します。
- ③. 取得した対象のデータをファイル出力します。
- ④. 移行元ISP環境のStorage Serviceより電子会議室の添付ファイルを手動で取得します。

i コラム

移行元ISP環境で作成したコミュニティは、パブリックグループとして中間ファイルが作成されます。

- 中間ファイルのインポート

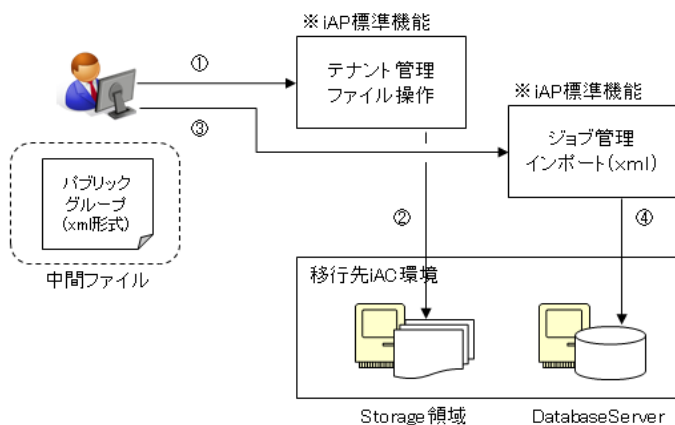
手順 1

IM共通マスタのジョブを利用して、移行元ISP 環境のコミュニティ情報を 移行先iAC 環境のパブリックグループへ移行します。

i コラム

コミュニティからパブリックグループへの移行が不要な場合、手順 1 はスキップできます。

・コミュニティパブリックグループ



- ①. パブリックグループ xml を 移行先iAC 環境へアップロードします。
- ②. Storage領域 にパブリックグループ xml が配置されます。
- ③. ジョブ管理よりパブリックグループインポート (xml) ジョブを実行します。
- ④. 移行先iAC 環境にパブリックグループがインポートされます。

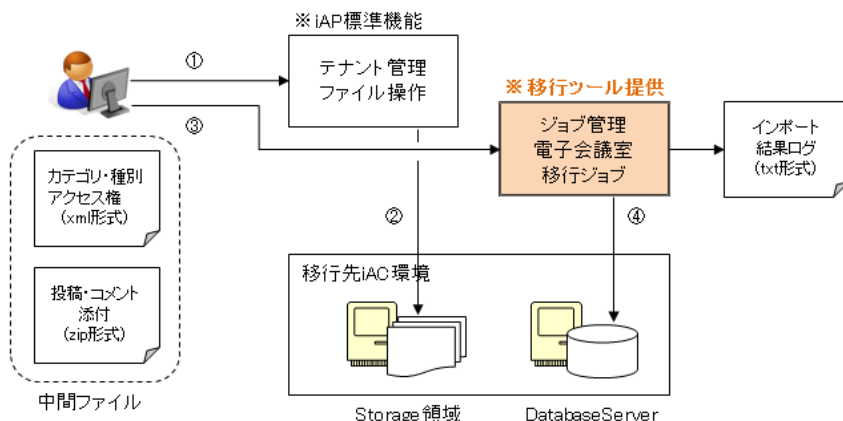
! 注意

コミュニティに多言語の概念がないため、移行後のパブリックグループのロケールは日本語として登録されます。

手順 2

電子会議室のジョブを利用して、中間ファイルを 移行先iAC 環境へ移行します。

・カテゴリ・種別、アクセス権限、投稿・コメント



- ①. カテゴリ・種別、アクセス権 xml を 移行先iAC 環境へアップロードします。

投稿・コメント、添付 zip を 移行先iAC 環境へアップロードします。

- ②. Storage領域 に中間ファイル xml、 zip が配置されます。
- ③. ジョブ管理より電子会議室インポートジョブを実行します。
- ④. 電子会議室の各種情報がインポートされます。
- ⑤. インポート結果ログが出力されます。



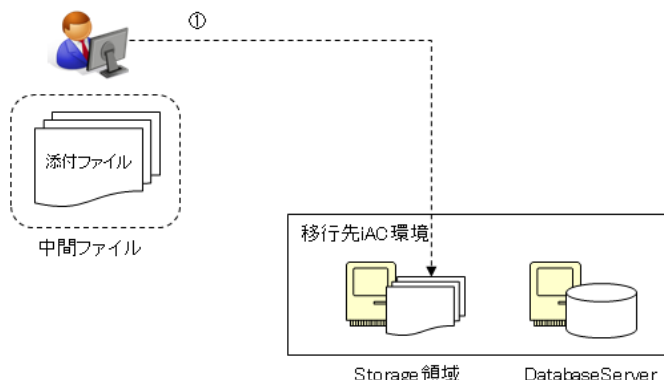
注意

電子会議室のインポートは、電子会議室インポート・エクスポートモジュールが必要です。

手順 3

手動で添付ファイルを 移行先iAC 環境へ移行します。

・添付ファイル



①. Storage領域 に添付ファイルを手動で配置します。

前提条件

- 本移行ツールは、移行元ISP 環境から中間ファイルを出力する機能から構成されます。初期移行を対象としているため、電子会議室のデータベース、Storage領域に初期データ以外のデータ、ファイルが存在しないことを前提とします。
- ユーザ、会社・組織、役職、パブリックグループ、ロールは、移行済みであることを前提とします。
- 動作環境
弊社、動作検証済み環境を以下に示します。

条件項目	対応規格
OS	<ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Sever 2012 R2 ■ Amazon Linux
Java ランタイム	<ul style="list-style-type: none"> ■ Java Development Kit 8.0 Update 45



注意

本移行ツールは Java で動作します。環境変数 PATH に JDK のPathを通してする必要があります。また、本移行ツールはJava8以外は動作対象外となります。

- ISP 移行対象データ
 - カテゴリ・種別、アクセス権、記事、コミュニティ情報
 - 添付ファイル

- 移行対象ISPバージョン
 - ISP v7.1.5

データ移行前に必要な手順を、説明いたします。

項目

- 移行ツールのインストール
- データのバックアップ
- 設定ファイルの編集
 - conference-importer-config.xml
 - jdbc.dicon
 - s2jdbc.dicon

移行ツールのインストール

移行ツールのインストールを実施します。

1. ダウンロードした圧縮ファイル（ conference_exporter.zip ）を、任意のフォルダに展開します。
Windows の場合は任意のZIP 解凍ツールで解凍してください。
Linux の場合は以下のコマンドで解凍することが可能です。

```
# unzip conference_exporter.zip
```



コラム

以降、移行ツールのルートディレクトリを <% EXPORT_HOME %> と表記します。

2. 接続先DBに応じて、移行元ISP 対象バージョンのJDBCドライバを入手します。
 - Oracle DatabaseのJDBCドライバは以下のURLよりダウンロードできます。
<https://www.oracle.com/database/technologies/appdev/jdbc-downloads.html>
 - PostgreSQLのJDBCドライバは以下のURLよりダウンロードできます。
<https://jdbc.postgresql.org/download.html>
 - SQL ServerのJDBCドライバは以下のURLよりダウンロードできます。
<https://docs.microsoft.com/sql/connect/jdbc/download-microsoft-jdbc-driver-for-sql-server>



コラム

本ページの外部URLは、2021-08-01時点のものです。
なお、掲載されているURLは変更になる場合があります。
その場合は対象バージョンのJDBCドライバを検索して入手してください。

3. JDBCドライバのダウンロード後、次のフォルダにコピーします。

```
<% EXPORT_HOME %>/lib
```

データのバックアップ

移行元ISP 環境、移行先iAC 環境のバックアップを取得します。 バックアップ対象は以下の通りです。

- 移行元
 - ・ データベース
 - ・ Storage Serviceの<% STORAGE_PATH %>配下
- 移行先

- ・ データベース
- ・ Strage領域

設定ファイルの編集

ご利用の環境に合わせて、以下の移行ツール設定ファイルを編集します。

移行ツールのファイル構成については、「[電子会議室 移行ツール 機能仕様書 ファイル構成について](#)」を参照してください。

conference-importer-config.xml

移行ツールの設定をします。

<% EXPORT_HOME %>/conf/conference-importer-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<conference-importer-config
  xmlns="http://tokaisoftware.co.jp/product/dto/conference/importer/config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://tokaisoftware.co.jp/product/dto/conference/importer/config conference-importer-config.xsd ">
  <IspVersion>7.1.5</IspVersion>
  <DestinationDirectory>product/conference/import</DestinationDirectory>
  <ExceptCommunityFlg>0</ExceptCommunityFlg>
  <ExcludeCommunityMember>0</ExcludeCommunityMember>
  <SystemStartDate>1900-01-01+09:00</SystemStartDate>
  <SystemEndDate>3000-01-01+09:00</SystemEndDate>
</conference-importer-config>
```

設定項目	設定内容
IspVersion	移行元ISP バージョンの設定です。
DestinationDirectory	移行元ISP データを、エクスポートするディレクトリの設定です。 指定がない場合は、デフォルトで実行ファイルの相対パスである product/conference/import が指定されます。
ExceptCommunityFlg	コミュニティを移行する設定です。 0：移行する 1：移行しない
ExcludeCommunityMember	コミュニティの所属情報を移行する設定です。 0：移行する 1：移行しない
SystemStartDate	移行先システム、開始日時の設定です。(yyyy-MM-dd+09:00形式)
SystemEndDate	移行先システム、終了日時の設定です。(yyyy-MM-dd+09:00形式)



コラム

以降、DestinationDirectory項目の設定値を <% DestinationDirectory %> と表記します。



注意

各設定項目の、設定内容に書かれている設定値以外に関しては、動作保証範囲外となりますので、注意してください。

データベースの接続先を設定します。

対象データベースのコメントを外し、項目の設定を実施します。

```
<% EXPORT_HOME %>/resources/jdbc.dicon
```

```
<!-- for PostgreSQL -->
<!--
<component name="xaDataSource"
  class="org.seasar.extension.dbcp.impl.XADataSourceImpl">
  <property name="driverClassName">
    "org.postgresql.Driver"
  </property>
  <property name="URL">
    "jdbc:postgresql://localhost/test"
  </property>
  <property name="user">"xxx"</property>
  <property name="password">"xxx"</property>
</component>
-->
```

設定項目 (name)	設定内容
driverClassName	JDBCドライバのクラス名を設定します。
URL	接続先のデータベースを設定します。
user	接続先データベースのユーザ名を設定します。
password	接続先データベースのパスワードを設定します。

s2jdbc.dicon

dialectを設定します。

接続するデータベースに合わせて、<property name="dialect">の定義をコメントの外に出して有効にしてください。

```
<% EXPORT_HOME %>/resources/s2jdbc.dicon
```

```
<property name="dialect">postgre81Dialect</property>
<!--
<property name="dialect">db2390Dialect</property>
<property name="dialect">db2400Dialect</property>
<property name="dialect">db2Dialect</property>
<property name="dialect">mssql2005Dialect</property>
<property name="dialect">mssqlDialect</property>
<property name="dialect">oracleDialect</property>
<property name="dialect">postgreDialect</property>
<property name="dialect">postgre81Dialect</property>
-->
```



コラム

ダイアレクトは、http://s2container.seasar.org/2.4/ja/s2jdbc_setup.html を参照してください。

データ移行実施手順について、説明いたします。

項目

- 中間ファイルのエクスポート
 - コミュニティ、カテゴリ・種別、アクセス権、記事のエクスポート
 - 添付ファイルの取得
- 中間ファイルのインポート
 - コミュニティのインポート
 - カテゴリ・種別、アクセス権、記事のインポート
 - 記事添付ファイルのインポート

中間ファイルのエクスポート

以下の手順に従って、中間ファイルのエクスポートを実行します。

コミュニティ、カテゴリ・種別、アクセス権、記事のエクスポート

カテゴリ・種別、アクセス権、記事、コミュニティをエクスポートします。

1. 中間ファイルのエクスポートを実行

- 移行元がWindows
<% EXPORT_HOME %>配下の実行ファイル `export.bat` をクリックし、実行します。

中間ファイルのエクスポートに成功すると以下のメッセージが表示されます。

```
<% EXPORT_HOME %> >java -cp .;\iac_conference_migration.jar; \lib\*;.\resources
jp.co.tokaisoftware.product.conference.importer.Migration export
[2015-07-01 15:23:00] INFO - エクスポートを開始します。
[2015-07-01 15:23:01] INFO - s2-frameworkのバージョンは2.4.45です。
[2015-07-01 15:23:01] INFO - s2-extensionのバージョンは2.4.45です。
[2015-07-01 15:23:01] INFO - s2-tigerのバージョンは2.4.45です。
[2015-07-01 15:23:01] INFO - Running on [ENV]ct, [DEPLOY MODE]Hot Deploy
[2015-07-01 15:23:02] INFO - 電子会議室-カテゴリ・種別のエクスポートを開始します。
[2015-07-01 15:23:03] INFO - 電子会議室-カテゴリ・種別のエクスポートに成功しました。
[2015-07-01 15:23:03] INFO - 電子会議室-投稿・コメントのエクスポートを開始します。
[2015-07-01 15:23:03] INFO - 電子会議室-投稿・コメントのエクスポートに成功しました。
[2015-07-01 15:23:03] INFO - スタートパックコミュニティのエクスポートを開始します。
[2015-07-01 15:23:04] INFO - スタートパックコミュニティのエクスポートに成功しました。
[2015-07-01 15:23:04] INFO - エクスポートに成功しました。
```

```
<% EXPORT_HOME %> >pause
続行するには何かキーを押してください . . .
```

- 移行元がLinux
以下のコマンドを実行します。
- ディレクトリを移動

```
# cd <% EXPORT_HOME %>
```

- 実行権限を付与

```
# chmod +x export.sh
```

- 中間ファイルのエクスポートを実行

```
# ./export.sh
```

2. <% DestinationDirectory %> ディレクトリに、中間ファイルが出力されます。出力される中間ファイルと、出力される情報は、以下となります。

ファイル名	出力される情報
public-group.xml	コミュニティ、パブリックグループ
conference-master.xml	カテゴリ・種別、アクセス権
conference_info.zip	投稿・コメント、添付

コラム

出力される中間ファイルは、文字コードがUTF-8となります。

添付ファイルの取得

記事に添付されたファイルを取得します。

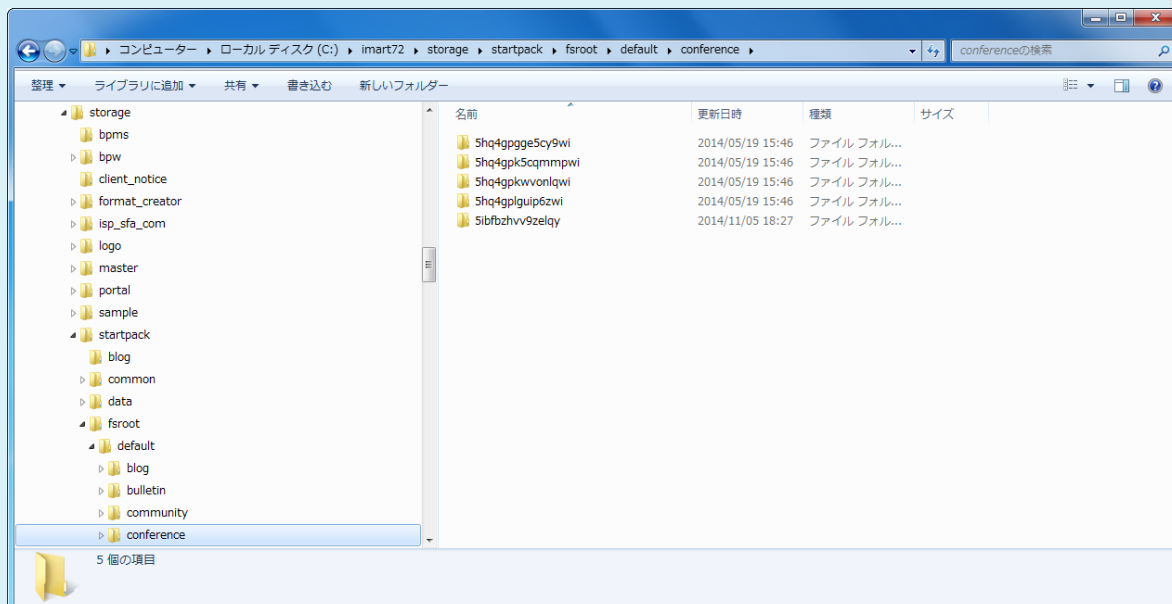
1. 移行元ISP 環境の StorageService より、記事の添付ファイルを取得します。以下ディレクトリ内にあるフォルダをすべてコピーします。

```
<% STORAGE_PATH %>/startpack/fsroot/<% グループID %>/conference
```

コラム

移行元ISP

例) /imart72/storage/startpack/fsroot/default/conference



注意

記事に添付されたファイルは手動で移行先iAC 環境へコピーする必要があります。

以上で中間ファイルの作成は完了です。

以下の手順に従って、中間ファイルのインポートを実行します。

コミュニティのインポート

ジョブを利用して、コミュニティ情報を 移行先iAC 環境のパブリックグループへインポートします。
<% DestinationDirectory %> ディレクトリに出力された public-group.xml を使用します。

- public-group.xml のインポート
 1. テナント管理者でログインします。
 2. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ファイル操作」をクリックします。
 3. <% テナントID %>/im_master/data/<% テナントID %> 配下へ public-group.xmlファイルをアップロードします。
 4. 「テナント管理」→「ジョブ管理」→「ジョブネット設定」をクリックします。
 5. 「IM共通マスタ」→「インポート」→「パブリックグループ」をクリックします。
 6. 「即時実行」ボタンをクリックし、インポートジョブが実行されます。
 7. 移行先iAC 環境にパブリックグループの情報が取り込まれます。

カテゴリ・種別、アクセス権、記事のインポート

ジョブを利用して、カテゴリ・種別、アクセス権、記事を 移行先iAC 環境へインポートします。
インポートの方法は、「[電子会議室 管理者操作ガイド/インポート・エクスポートをする](#)」を参照してください。

記事添付ファイルのインポート

記事に添付されたファイルは、手動で 移行先iAC 環境へコピーします。

- 添付ファイルの配置
 1. 移行先iAC 環境の Storage領域 へ、下記の構成となるよう conference ディレクトリを作成します。

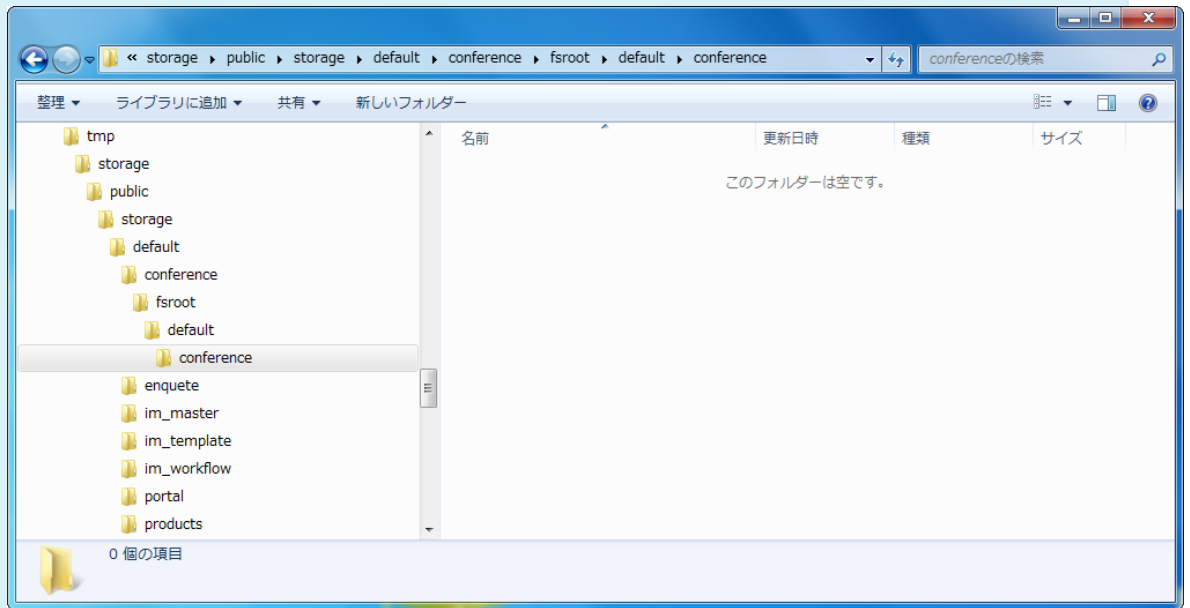
```
<% PUBLIC_STORAGE_PATH %>/<% テナントID %>/conference/fsroot/<% テナントID %>/conference
```

2. 作成した conference ディレクトリへ、物理ファイルを配置します。

i コラム

移行先iAC

例) /tmp/storage/public/storage/default/conference/fsroot/default/conference



以上で中間ファイルの取り込みは完了です。

項目

- エラーの確認方法
- エラー一覧

エラーの確認方法

- 移行ツールの実行結果
移行ツール実行中にエラーが発生した場合、標準出力へ実行結果が出力されます。

```
[2015-07-01 10:37:36] INFO - エクスポートを開始します。
[2015-07-01 10:37:36] INFO - s2-frameworkのバージョンは2.4.45です。
[2015-07-01 10:37:36] INFO - s2-extensionのバージョンは2.4.45です。
[2015-07-01 10:37:36] INFO - s2-tigerのバージョンは2.4.45です。
[2015-07-01 10:37:37] INFO - Running on [ENV]ct, [DEPLOY MODE]Hot Deploy
[2015-07-01 10:37:38] ERROR - データベースの接続に失敗しました。データベースの接続先情報が正しくありません。
```



コラム

標準出力へ表示される実行結果は、`<% EXPORT_HOME %>/log/conference_migration.log` へ保存されます。

- 実行結果の出力定義
実行結果の出力内容は、スペースを区切り文字として、決められた形式で出力されます。出力形式を以下に示します。

項目位置	意味	説明
1	日付・時刻	出力日付・時刻（[yyyy-MM-dd HH:mm:ss]形式）。
2	エラーレベル	出力の重大さを表す以下のキーワード。 * INFO ..情報。処理開始、終了などの通知情報。 * WARN ..警告。処理停止を伴わない軽微な異常。 * ERROR ..エラー。処理停止を伴う重大な異常。
以降	エラーメッセージ	出力内容を表すメッセージ。

- 出力内容に対する対応
エラーが発生した場合は、出力内容に従って適切な対応を行ってください。個々のメッセージに対する対応方法については、[エラー一覧](#) を参照してください。
対応後は、再度インポートを実施してください。

エラー一覧

- 設定ファイルに関するエラー

エラーメッセージ	原因・対応方法
設定ファイルの読み込みに失敗しました。	設定ファイルが対象フォルダに存在していません。 設定ファイル[conference-importer-config.xml]を指定のディレクトリに配置してください。
設定ファイルに不正な値があります。	設定ファイルの内容に誤りがあります。 設定ファイル[conference-importer-config.xml]の項目を修正してください。

エラーメッセージ	原因・対応方法
出力先に入力不可文字が含まれています。	設定ファイルの[DestinationDirectory]に対して、不正なパス文字列が指定されています。 出力先ディレクトリの内容を配置してください。
ファイルの作成に失敗しました。	設定ファイルの[DestinationDirectory]に対して参照不可能なパスが指定されています。 対象マシンから参照可能なパスをファイルjパスを指定してください。

■ 接続先の設定に関するエラー

エラーメッセージ	原因・対応方法
データベースの接続に失敗しました。データベースの接続先情報が正しくありません。	移行ツール実行マシンと移行元サーバ間のネットワークが未接続状態、または、データベース接続設定に誤りがあります。 「 jdbc.dicon 」を参照し、接続先設定の修正を実施してください。
ISPがインストールされていません。	移行元に指定しているDBにISPがインストールされていません。 ISPがインストールされた接続先を指定してください。

■ 取込ファイルに関するエラー

エラーメッセージ	原因・対応方法
XMLファイル (conerence-master.xml) のフォーマットが不正です。[詳細メッセージ]	インポートファイルの形式に誤りがあります。 インポートファイルの内容を修正してください。
[ファイル名]: [ヘッダ列名]は必須です。	取込対象の電子会議室情報に未入力フィールドがあります。 電子会議室情報、該当列の項目を設定してください。
[ファイル名]: [ヘッダ列名]の形式が正しくありません	取込対象の電子会議室情報の、日付形式が正しくありません。 電子会議室の該当列を日付形式 (yyyy/MM/dd HH:mm:ss) に修正してください。

■ 実行環境によるエラー

エラーメッセージ	原因・対応方法
ファイルのオープンに失敗しました。 ファイル名 = ファイルパス	指定されたファイルがユーザにより使用されています。 使用しているファイルを閉じてください。
書き込みに失敗しました。 ファイル名 = ファイルパス	指定されたファイルがユーザにより使用されています。 使用しているファイルを閉じてください。
指定されたファイル 「{0}」 は存在しません。	指定されたファイルが存在しません。 処理対象のファイルを配置してください。
ジョブ実行時に予期しないシステムエラーが発生しました。	テナント管理者、または、サポートセンターへお問い合わせください。

移行対象

パブリックグループは日本語として移行されます。

移行元ISP 環境から移行するコミュニティには多言語情報が存在しないため、パブリックグループは日本語として移行されます。

電子会議室を使用していないコミュニティの移行は対象外です。

電子会議室を使用していないコミュニティ、または、閉鎖されたコミュニティは、移行の対象外です。

個人設定の移行は対象外です。

個人設定 (ispm_conference_mng) は、移行対象外です。

記事の既読情報は、移行先iAC 環境へ反映されません。

既読データは 移行先iAC 環境に移行されません。

そのため、移行先iAC 環境の記事の未読・既読情報は、すべて既読状態になります。

移行注意点

conference-master.xmlが存在しない場合、インポートが失敗します。

conference-master.xmlが、指定されたディレクトリに存在しない場合、インポートが失敗します。

インポートを実施する際は、必ずconference-master.xmlを指定されたディレクトリへアップロードしてください。

コミュニティに所属するユーザが 移行先iAC 環境に存在しない場合、インポートが失敗します。

コミュニティに所属するユーザが 移行先iAC 環境に存在しない場合、パブリックグループのインポートに失敗します。

コミュニティ情報を移行する場合は、移行先iAC 環境に所属するユーザを作成してから、移行を実施してください。

移行に際して発生する文字化けは、JDBCドライバと文字コードのマッピング方式の差異によるものです。

移行に際して発生する文字化けについては、Javaの実装 (SJIS,MS932,EUC等、文字コード毎の変換ルーチン)

上の問題、および、JDBCドライバとJavaにおける文字コードのマッピング方式が異なることで発生します。

以下のデータベース環境での動作を検証済みです。

弊社では、以下のデータベース環境での動作を検証済みです。

<移行元>

- Microsoft SQLServer 2008 R2 Express
- PostgreSQL 8.4

<移行先>

- Microsoft SQLServer 2014 R2 Express
- PostgreSQL 9.4

移行用の中間ファイルにブランクを設定するため、DB環境によっては、ブランクが設定される可能性があります。

設定ファイル (conference-importer-config.properties)

日本語を使用できません。

- 設定ファイルに定義する値には、日本語を使用できません。

パスの指定に「¥」を使用できません。

- 設定ファイルに定義するパスの設定には、区切り文字に「/」のみを使用します。